

【プレゼンテーション・全体講評】

※ 発言内容中、ゴシック体の文言は、グループワークでの付箋の記載内容とリンクする内容を示しています。

1. プレゼンテーション

＜医療＞ 発表者：余市町保健課 濱川課長

○濱川課長 医療の分科会では、救急医療体制の確保、小児科・周産期医療体制の確保、ネットワーク化の3点について協議をしました。

1点目、救急医療体制の確保の課題は、現場は現状の体制維持でいっぱいである。どう維持するかの課題がある。また、お医者さん、看護師の確保に苦慮しているといったことのほか、予算上、どう財源を確保するかということが挙げられました。それに対する取組ということでは、救急医療にかかる前に**早期の受診**を勧奨すると言いますか、**住民の方々**に周知を図って、早め早めに病院へかかっていたといたことで、**重度化の防止**にもつながっていくのではないかと話がありました。

次に**小児科・周産期医療体制の確保**ということで、こちらの課題でございますが、**各医療機関の情報公開や共有**ということが大事ではないか。また、安定した、継続した診療を受けてもらうためには、**病院への通院に要する時間距離**の課題があります。特に周産期につきましては4月から皆さんご存知のように小樽協会病院で産科の再開のめどが立ったということでございます。妊婦さんの**移動手段**として、**自家用車や公共の交通機関、介護タクシー**ではないのですが通院に使われるタクシーを利用することになります。そういった**移動のための支援**、また**手段**についても協議していつて妊婦さんが安全、安心に移動できるような手段を講じるべきではないかとございまして、取組といたしましては、地域におきまして**継続的な治療、受診を確保**するということで、広く地域の中で医療を含めた情報共有を進めていくべきではないかとございまして。

最後、**ネットワーク化**ということでございまして、こちらにつきましては**色々な会議**を小樽、また後志管内で行っていますが、特に**後志保健医療福祉圏域連携推進会議**という会議を後志管内で行っています。まずこちらの会議での協議が大変重要なものになってきています。ただ、そういった情報が広く伝わっているのかということに関しては、若干疑問視もあつたものでございまして、そういった重要な情報をいかに発信していくかということで、マスコミをうまく利用した中で、**情報公開**に努めていつて、住民の方々へ分かりやすく周知していく必要があるのではないかとございまして。

○李会長 最後のところ、おたる地域包括ビジョン協議会で検討しているということだったと思いますが、どういうことを具体的に検討して、今懸案の課題とか、どういうところを議論しているのか簡単に紹介していただいで良いでしょうか。

○大庭委員 日本の最近の医療制度改革の二本柱は「地域医療構想」と「地域包括ケアシステム」です。両者ともに協議が進行しているところですが、特に地域包括ケアシステムの構築の為、平成27年に「おたる地域包括ビジョン協議会」を立ち上げております。将来に向け在宅医療と介護サービスを一体的に提供できるように、**医療機関と介護サービス事**

業者等の連携を推進し高齢者が可能な限り住み慣れた地域で安心して生活ができる体制を築いていくことが目的です。協議会には医師会、歯科医師会のほか、公的病院、公立病院、訪問看護、後志リハビリテーション支援センター、小樽市の介護保険課、保健所等の関係機関が参加し、オール小樽で取り組んでいます。協議会は8つの分科会から成っており、医療施設から在宅（自宅や高齢者施設）等へ移行した場合に、患者情報の共有や医療介護連携が支障なく行われる為のシステムをいかに作るか。この地域の医療と介護資源の実情に合った切れ目の無い**医療介護ネットワーク**を行政とともに構築できるか協議を続けている最中です。

○李会長 ありがとうございます。細かく言い出したらきりがありませんが、これから国の医療政策も含めて地域包括ケアシステムを自治体ごとに特徴を出して作るということもあると思います。そういった意味では小樽で色々な医療機関の集積もありますので、後志地域をまとめる意味でも、小樽で地域包括ケアビジョンをしっかりと作って皆を巻き込んで一緒に安心して健康寿命を全うする、こういったものを先進事例として小樽でやっていくことが望ましいのかなという気がします。

＜福祉・安心な暮らし＞ 発表者：赤井川村保健福祉課 藤田課長

○藤田課長 福祉・安心な暮らしの課題は2つ挙がっていましたが、本日構成員の中で消費生活を担当している方がいなかったもので、成年後見の制度を中心に検討させていただきました。

こちらで課題として挙げさせていただいたものが5つありまして、まず1番に**成年後見という制度について周知が不足しているのではないか**ということ、利用者の実数からして**まだ後見を必要とされる方が利用できていないのではないか**という課題が出ていました。こちらにつきましては色々な形で周知をしていくしかないのかなというところで、積極的にPRするとか、市町村の広報誌などで周知を深めることが良いのではないかという意見が出ております。

次に課題として挙げたのが、**市民後見人の養成**ということで、人数自体は確保されていますが、年齢を重ねて**高齢化が進んでおりまして、新しい担い手の方を探さなければならない**ということがあります。実際に養成するにあたって**時間がかかったりするので、こちらの課題への対応としては養成方法、内容の再検討が必要なのではないか**という意見が出ておりました。

次に**後見制度に至らない方への対応をどうしたら良いか**ということで、道社協でも行っております**日常生活自立支援事業**などを利用する場合、**時間がかかったりするなどの課題**がありまして、対応策としては**独自の制度を作る**などで対応していくしかないのかなという意見が出ております。

続きまして**相談件数の増加と複雑化**ということで、**対象となる高齢者が増えておりまして、相談内容につきましても複雑化している**ということです。ケースによっては**困難な事例も見受けられる**ということで、対応としては**組織体制の充実や後見人自体のスキルアップ**が必要。また、**関係機関との連携も重要ではないか**という意見が出ております。

最後に後見センターの立地についてということで、小樽市以外の町村からだと距離感があり利用しづらいという課題が挙げられております。それにつきましては立地なので解決するのは難しいと思いますが、対応の案としては出張相談や、各町村で対応できる場合はそこで対応するなどという意見が出ておりました。

総体的にまとめた意見としては、実際行っている取組について、着実に継続していくことが重要ではないかというふうにまとめました。

○李会長 後見人制度について、かなり多方面な分析をしていただいて、具体的な課題などを指摘していただいたかなと思います。ただ取組としては、私も不得手で分からないのですが、最後の立地の問題というのは、小樽市しかこのような施設がないのですか。

○藤田課長 センター自体は小樽に設置しております。

○李会長 今までは、各町村へ出向いて相談はやってこなかったのですか。

○藤田課長 そうですね。

○李会長 せっかくですから、他の町村から要望があるということですので、これからは連携をもう少し、直接行かなくても情報サービスやSNSなどのさまざまな発信方法があると思うので、そういうものをうまく利用する方法も考えられなくはないと思います。ありがとうございました。

<教育> 発表者：赤井川村教育委員会 大石次長

○大石次長 重要な部分としては情報の共有化、それから文化財への考え方というものが、一番大きなテーマとして出ました。

情報の共有化につきましては、現在であればそれぞれの情報共有化が不足している、情報が十分に周知されていない。ではそれをどうしたらよいかというところで、このような懇談会だとか社会教育会議などを活用して職員同士の交流をもっと図る必要があるのではないかと。それから現段階でも、例えば小樽市さんであればこういう講座がありますよということを町村にきちんと知らせているのか、町村でこういうことを行いますということをお樽市さんに知らせているのか、という部分がそもそもできていないのではないかと。だから、最後に少し話が出たのですが、このビジョンの必要性というか、存在自体を職員が知らない状態になっているのではないかとということで、きちんとした共有化や発信の強化というところを再認識してはどうかという意見が出ました。

それから文化財につきましては、それぞれ文化財が小樽市さんや各町村にあります、点在していて、それがなかなか線としてつながっていない、それからそれぞれの文化財のPRが不足しているのではないかとという部分で利用者、来館者等が減っているのかなと考えています。解決策としては共同でイベントを開催する、マップ等で文化財の見える化をする、それから学校等の社会科見学等で使用していただくためのPRをするという意見が出ました。

スポーツ交流につきましては、なかなか種目が違くと交流しづらいという難しさがあるという意見が出ましたが、異なったスポーツでの大会を見てもらうだとか、あとは全体を通して基礎体力作りをテーマとしたような講習会をやってはどうだろうかという意見が

出しました。

最後、人材というふうにまとめましたが、実際は意見がばらばらなのですが、**利用者の足の確保が必要、それから活用する団体の高齢化、イベントの継続性が保てない**ということで、大きく人材とくくりました。対応策としては、**ボランティアの育成、交流が必要**。また、ばらばらだった予算をまとめて、**大きなイベントや講演会を開催し集客を図る**という考え方もあるのではないかという意見が出ました。以上です。

○**李会長** 教育といっても、文化財の考え方とか、あるいは学校のスポーツ、そういった分野に絞って発表してもらいましたが、その他にも教育全般の議論はありましたか。

○**大石次長** このビジョンでうたっているものは基本的に社会教育で、学校教育についてはうたっていない。だからそもそも論になってしまうかもしれないけれど、このビジョンを策定する段階で、担当レベルのところから意見を集約すると、もっと色々な意見、色々な交流が出てきたのではないかなという意見がありました。第3次につないでいくにあたり、そういう部分を、もっと広い意見を取りまとめる形があると良いのではないかなと思います。

○**李会長** どの町村でも少子化は大変な問題で、定員不足ということもあるし、合併も含めてさまざまな学校が減らされるなかで、いかに教育の質を担保するか、どの町村でも死活問題だと思います。私も大学にいる人間として、こういった問題は非常にシビアなものとして捉えています。ただこういった根本的な問題を議論する場がなかなかなかったと思いますし、それをKPIにまとめるということも難しい作業ではあると思いますが、今ご指摘あったとおりでと思います。やはり教育の根本的なところというものは避けて通れないと思いますので、ぜひ3次なのか、もう少し早い段階であればいいと思いますが、方策を議論する場を用意してもらえればいいなと思います。私からもぜひお願いしたいと思います。ありがとうございました。

＜広域観光・地域公共交通・移住交流＞

発表者：積丹町商工観光課 山崎課長、古平町企画課 細川課長

○**山崎課長** この分科会は分野が3つに分かれているものですから、3つに分けて説明したいと思います。私からは**広域観光**の部分を発表します。

課題としましては、**通年型観光、広域のインパウンドの交通手段、札幌・道央圏からの誘客**などが課題になっているのではないかとということで、さまざまな意見が出てきております。また、**受入体制の強化**等も地域としての課題ではないかとということで、相当な課題が、細かい部分ではあるのですが出てきています。これに対しての対応策は、移住ですとか、公共交通にもリンクしていきますが、さまざまな**情報発信**が必要なのではないかという意見が出ました。また、発想を転換して通年型ではなく、**観光分野に季節労働力を招き入れる**など、北海道特有の季節的なところにこだわっても良いのではないかとこのところが意見として出ております。いずれにしても北海道特有の**広域観光の課題を、発想の転換をして変えていく**ということが解決策として出ております。

○**細川課長** 私からは**地域公共交通と移住交流**の2つについてプレゼンをさせていただきます

ます。まず**地域公共交通**なのですが、ビジョンの中では運行便数の維持ということをやっているのですが、課題としてそもそもこれだけ人口減少が進んでいる中で、**運行回数を現状維持していくことは難しいのではないか**という意見が出ていました。また、小樽市にこれだけ中国人、台湾人の方が訪れていて、その方々がバスを利用した場合に地名などでバスの行き先が書かれていますが、実際に**外国人がバスに乗った場合、その地名だけではどこにいるのか、どこに向かっているのかが分からないのではないか**というような意見が出ておりました。対応策といたしまして、まず**公共交通で行ける観光地のアピールの強化**、そのために**バスの中で使える無料のWi-Fiを設置する**のも1つの手ではないかという意見が出ていました。

移住交流ですが、意見として出ていたのは**移住者を募集しても実際に移住者が来ないという事例があった**。更には移住者向けの農業を経験させるような移住方策は多くあるが、**漁業を経験できるような新たな移住方策もいいのでは**。外国人移住者には日本のルールをもう少しきちんと発信したり、安全な場所であることなどを伝えたりするべきではという意見が出ていました。移住交流の対応策としては、冬はどうしてもマイナスのイメージがありますが、**冬に季節労働者を呼び込むような方策も良いのではないか**という意見が出ていました。以上です。

○**李会長** かなり色々なアイデア満載のプレゼンだったと思いますが、中央バスの方もいらっしゃっているので、あまりたくさん情報を入力せずによく使えるようなWi-Fiの導入をぜひお願いします。

○**臼井委員** Wi-Fiの導入については少しずつ進めています。

○**李会長** 農業体験だけではなく漁業体験もするというのはこの地域ならではの思い、面白いアイデアだと思います。最後に気になったのが、冬に来られる方のために、何か特別な、具体的なアイデアは出ましたか。できれば夏だけではなく冬にも来てほしいとよく言われますが、冬に来させるための特別な仕事を用意するとか、何かなければなかなか来てもらえないのかなと思います。その辺で何か意見があったのかと思います。

○**米花委員** ニセコでもそうですが、冬の仕事をして、冬だけ経験して海外へ帰られる。北半球と南半球で、彼らはずっと冬の職業しかしていない。そういうシーズンによって仕事をする方を優遇するような制度があれば当然そういうところに来ますし、海外の人からすると、きっと積丹からニセコのスキー場まで1時間から2時間圏内で全然近くという概念があるので、行けるのではないかなという気はしています。

○**李会長** そうですね。私たちも毎年ニセコで観光客の動向を調査しているのですが、やはり同じ冬でも今の時期だとオージーだとかニュージーランドの方がたくさん来て、ちょっと過ぎたあたり、例えば旧正月あたり、春節ではチャイニーズ系の方たちがたくさん来て、あとはアメリカ、カナダからもかなり来ているので、本格的にスキー、スノーボードを楽しむ層というのはシーズンを少しずつ変えて増えるので、そのあたりをうまく対応することが必要かもしれない。今、ニセコだけではなく、ニセコに滞在しながら富良野とか、あちこちで冬にスキーを滑ったり、あるいは日本のほかの文化を体験したりだとかが新たな観光動線として出てきている。後志ならではの各地の特徴をうまく利用して、

そういう観光客を取り込むことを進めてほしいと思います。ありがとうございました。

＜産業振興＞ 発表者：仁木町企画課 嶋井課長

○嶋井課長 今回グループ4名という非常に少ないなかで、小樽物産協会の伊澤常務理事がグループの中にいらっしゃいまして、今、卸や小売の業者が十数年前と比較して4割減っているというお話がありました。そういうなかで小さな業者さんなどが元気にやっているように、また地域が盛り上がるようにするにはどうすればいいのかというところで話が進みました。

われわれの中では4つに絞って話がありまして、まず1つとして**販路の拡大、新しい仕組みづくり**をして色々な業者さん、小さな業者さんでも色々なところに参入していける場面、仕組みを作ろうという話が出ております。そのなかでは、やはり**新しい物流の開拓**が必要だとか、**地場の企業と観光をリンク**させて何かできないかという課題、また**販売体制のチャンネル、新規の販路開拓**といったことをしていかなければならないということでした。どうしたらいいのかという話の中では、他の**成功した事例**を皆に見せる、そうしたことで自分たちも頑張ろうということになるのではないかという話がありました。また、**販路拡大のきっかけとなるような場面**を色々なところで作る、あとは、**地域商社、製造から小売まで**、自分のところで全部やるような**地域版のSPA（製造小売）**を作る、支援するという話が出ておりました。

また、**安定的な販路の確保**、そうやって作ったものを売るところが必要ということで、それをするためには**商品の差別化**が必要なのではないか、また**天候等に左右される商品が多い**、農業ですとか水産業、そういうものが多いので、そういうものをどうしていったら良いのかというところで、**生産の新しい技術を導入して加工品**を作るなど、**安定したモノの供給**ができるようにしたら良いのではないか。それを売るために、その販路としては、道の駅を作る、または本州ですとか**道外の道の駅に販路**を求めて、**北海道の物産**ということ販売をしていくということで一定の確保ができるのではないかという話もありました。また、**生産者自体の意識改革**をしていかななくてはいけない。皆にそういう意識を持ってもらうというような話も出ておりました。

それと**人材の育成**ということで、優秀な人材がなかなかこの地域で留まらず、外へ出てしまうとか、**圏域内での就職率**がどうしても高くない。また、**地元での創業意欲**が低く、それを醸成しなければならない、それをどうしたら良いのかというところが課題なのではないかという話がありました。そういう部分で**創業支援体制**の色々なものがあるのにそれが知られていないので、そういうところの周知、また**環境づくり**という部分、**地場企業の振興による雇用機会の創出**、また**教育機関などと連携**して色々な**アカデミー**などを開催することによって、**地域の人たちを地域に残しつつ教育**していく、それが**地域の産業振興**につながるのではという話でした。

最後に、**情報の共有と発信**。先ほどの分科会でも**情報**ということが出ておりましたが、われわれの中では今言った3つ全てに関してやはり**情報の共有**がこの地域全体で、北後志できていないところがあるのではないかというところで、**情報発信、情報の共有**をどん

どんしていきましょう。それと**情報発信**による色々な**評価システム**などを作っていき、または**販路拡大**に対する**企業の意識**にばらつきがあるので、そういうものも情報の共有によって、意識をつけてもらえれば良いのではないかということで、その部分では**圏域内**で共有する、この北しりべし定住自立圏で**情報収集、発信ツール**を新しく開発したら良いのではないかというような話も出ておりました。まとまりのない説明になってしまいましたが、以上です。

○李会長 今のプレゼンに関して何か質問はありますか。

○長田課長 情報発信、情報ツールというお話がありましたが、行政は苦手な部分だと思います。そちらの分科会で、何か具体的なアイデアは出ましたか。

○嶋井課長 特別こういうものをという話まではいっておりません。今色々皆さん使っているようなラインですとか、SNSで発信する、そういうものもありでしょうし、また、それとは全然違った、その地域で使えるようなツールを開発しては、ということで行くほうがいいのかと個人的に思います。

○李会長 では時間も押していますので、これでプレゼンは終わりとします。ありがとうございました。

2. 全体講評

○李会長 すでに各分科会で発表について若干コメントさせていただいたので、時間も押していることですし、しかも皆さん最後にまとめていただいたとおりでありますが、やはり地域で小樽とか北後志の町村と、こういった場づくりということが今までなかったと思います。今まで私もこういった会議で「皆さん、意見を」と言ってもなかなか意見を出してもらえなかったという現状がありましたが、今回はじめて町村の方たちに来ていただいて活発な、忌憚のないご意見をいただいたと思います。ですので、こういった**情報交換の場をもっと増やして**、場合によっては小樽だけでなく移動しながら、次回は余市だよとか、積丹まで行こうとか、もっともっと密に、日ごろから、SNSもいいのですが、アナログで顔を合わせてやった方が盛り上がる、本音が出せると思いますので、ぜひそういう機会をたくさん増やしてほしいと思いました。

あと大きなテーマとして人材育成、これは大事なテーマだと思いますので、教育のところも含めてですけれど、やはり皆がそれぞれの地域のことだけを考えるのではなく、**全体としてどういう人材を一緒に育てるべきなのか**、各分野に当然必要だとは思いますが、そういった**仕組みづくりから一緒に議論**することができたらいいなと思いました。

今まで出てきた分科会の色々な細かい指摘がたくさんあったと思います。拾いきれていないところもたくさんありますが、**全部捨てずに報告書にまとめてほしい**と思いました。ぜひそこは私から事務局にお願いしたいと思います。

ぜひ今日出てきた活発なご意見を参考にしながら、ひとつでも**多く実際の政策に反映**できるように、**私たちも注視していき**たいなと思いました。

以上、私からのまとめです。